2020年3月期　第1四半期
決算概要

テルモ株式会社
Chief Accounting and Financial Officer
武藤 直樹

2019年8月8日

2020年３月期第１四半期決算の概要について説明いたします。

利益が二桁伸長しガイダンス以上のスタート

（億円）

	18年度Q1	19年度Q1	増減率	為替除く増減率
売上収益	1,430	1,525	+7%	+9%
売上総利益	799 (55.8%)	852 (55.8%)	+7%	+9%
一般管理費	435 (30.4%)	445 (29.2%)	+2%	+4%
研究開発費	113 (7.9%)	118 (7.8%)	+5%	+4%
その他収益費用	8	4	-	-
営業利益	259 (18.1%)	292 (19.1%)	+13%	+17%
調整後営業利益	305 (21.4%)	339 (22.3%)	+11%	+18%
税引前利益	234 (16.4%)	288 (18.9%)	+23%	
当期利益	181 (12.6%)	228 (14.9%)	+26%	

期中平均レート			
	USD	109円	110円
	EUR	130円	123円

- 売上収益　：心臓血管が二桁伸長へ回帰し、全体を牽引
- 調整後営業利益：一般管理費を中心に、やや遅めの費用進捗
- 税引前利益　：前年同期の為替差損23億円に対し、今年度は差損3億円と縮小

TERUMO

2/21

全体総括です。

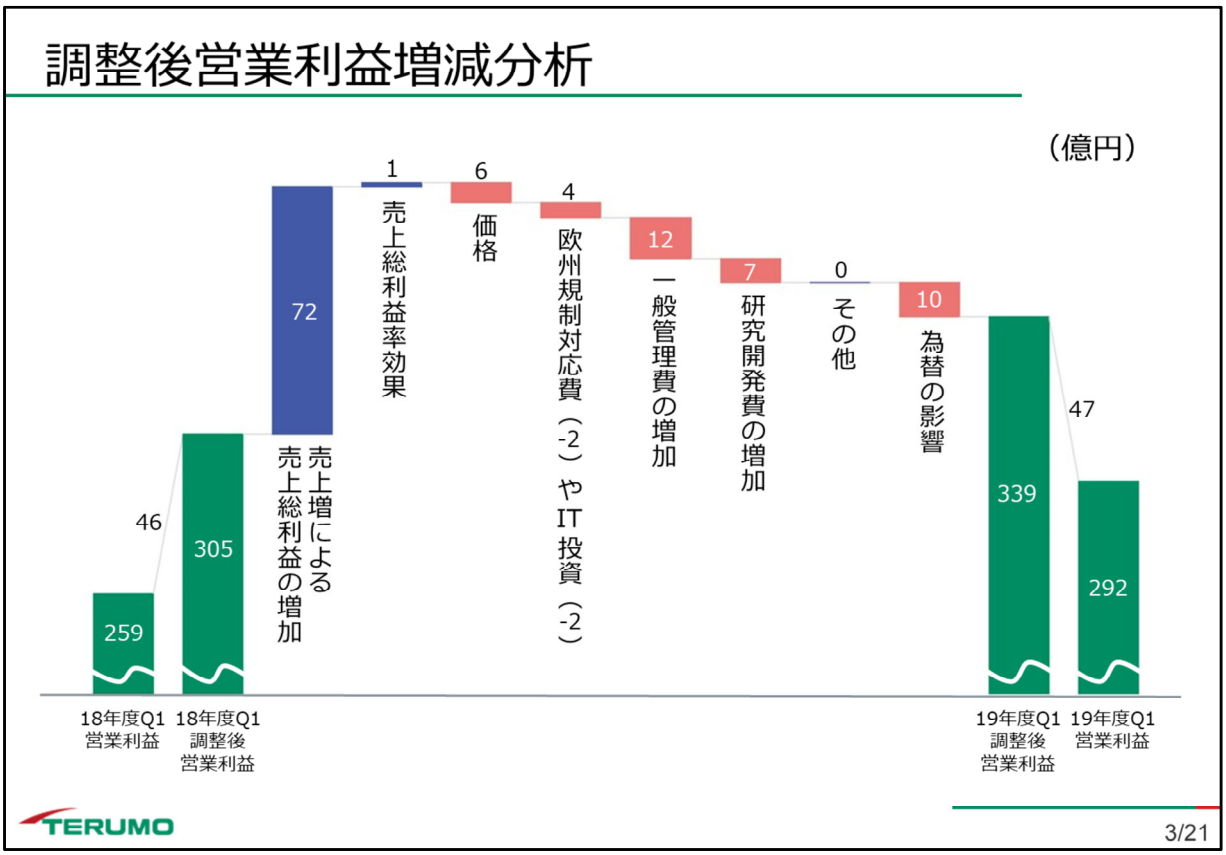
心臓血管カンパニーが順調な立ち上がりを示したことに加え、費用の進捗がやや遅めの事から、利益が二桁伸長しガイダンス以上のスタートを切っております。

売上収益は、心臓血管カンパニーが、昨年度の愛鷹工場における出荷遅延からの回復分を除いても、為替の影響を除いたベースで二桁伸長し、グループ全体を牽引した結果、7%伸長となりました。

調整後営業利益は、人件費を中心に一般管理費の費用進捗がやや遅めとなり、為替の影響を受けながらも11%増の二桁伸長となりました。

税引前利益においては、前年同期比で、為替差損が大きく縮小したため、26%の増益となりました。

第1四半期としては、売上収益、また全ての利益において過去最高となりました。



前年同期比での調整後営業利益の増減分析です。

「売上増による売上総利益の増加」は、通期ガイダンスの330億円と比較し一見小さいですが、昨年度、愛鷹工場における出荷遅延の影響があったために、今年度は第２四半期に大きく増加する見込みであり、計画通りの進捗です。

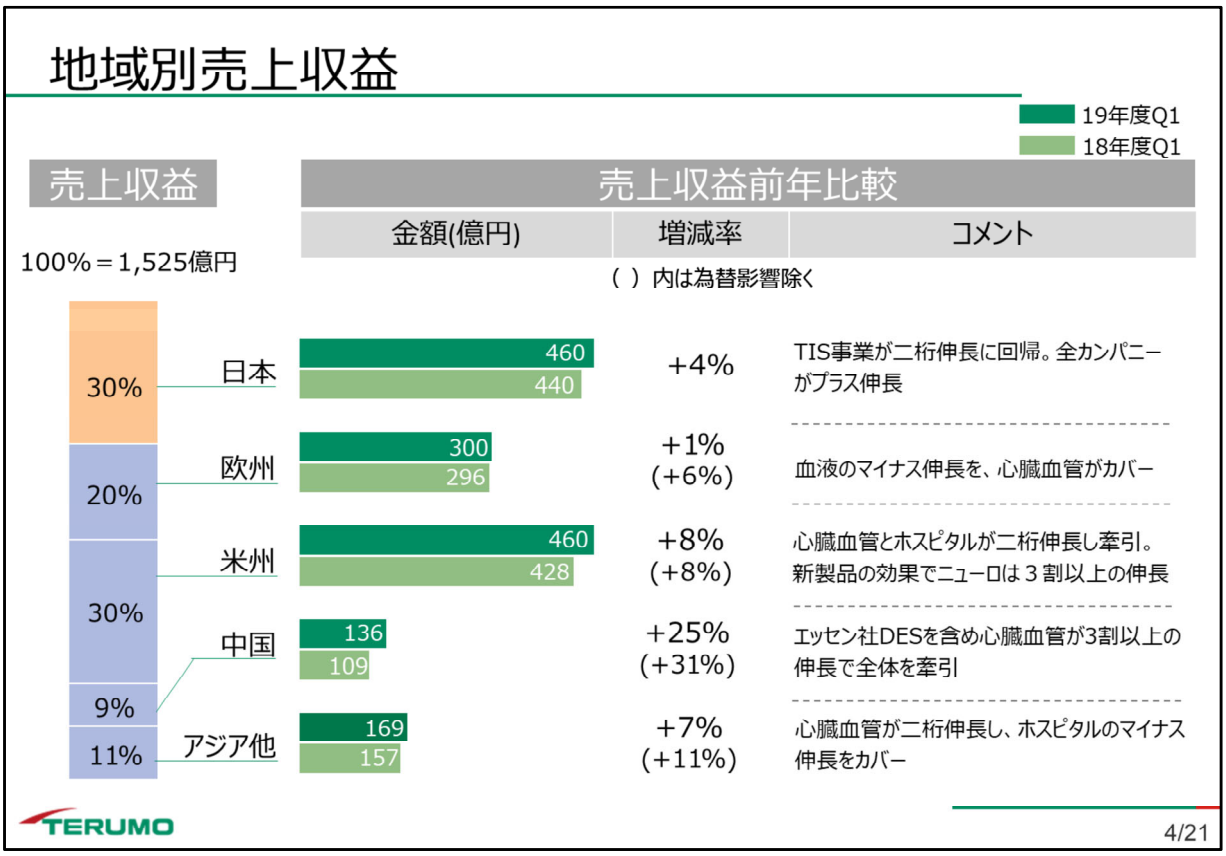
「売上総利益率効果」のプラス１億円も、通期ガイダンスのプラス48億円から、同様に小さく見えますが、テルモ山口D&D社の生産稼働にともなう生産コスト増を、心臓血管カンパニーの売上好調による事業ミックス改善でオフセットした結果、前年同期同様の高い粗利益率となっており、予定通りの進捗です。

「価格下落」は、一部、新価格の妥結が遅れている顧客があったため、進捗が遅れていますが、第２四半期以降、過去に遡って価格補正が入りますので、通期ではガイダンス通りになると見ています。

「一般管理費」は、プロモーション施策の期ずれが第１四半期に見られるものの、第２四半期以降徐々にキャッチアップし、通期ガイダンスの125億円増に近づくものとみています。

「研究開発費」は、通期ガイダンスの57億円増と比較し小さく見えますが、徐々に増える計画に対し、ほぼ想定通りです。

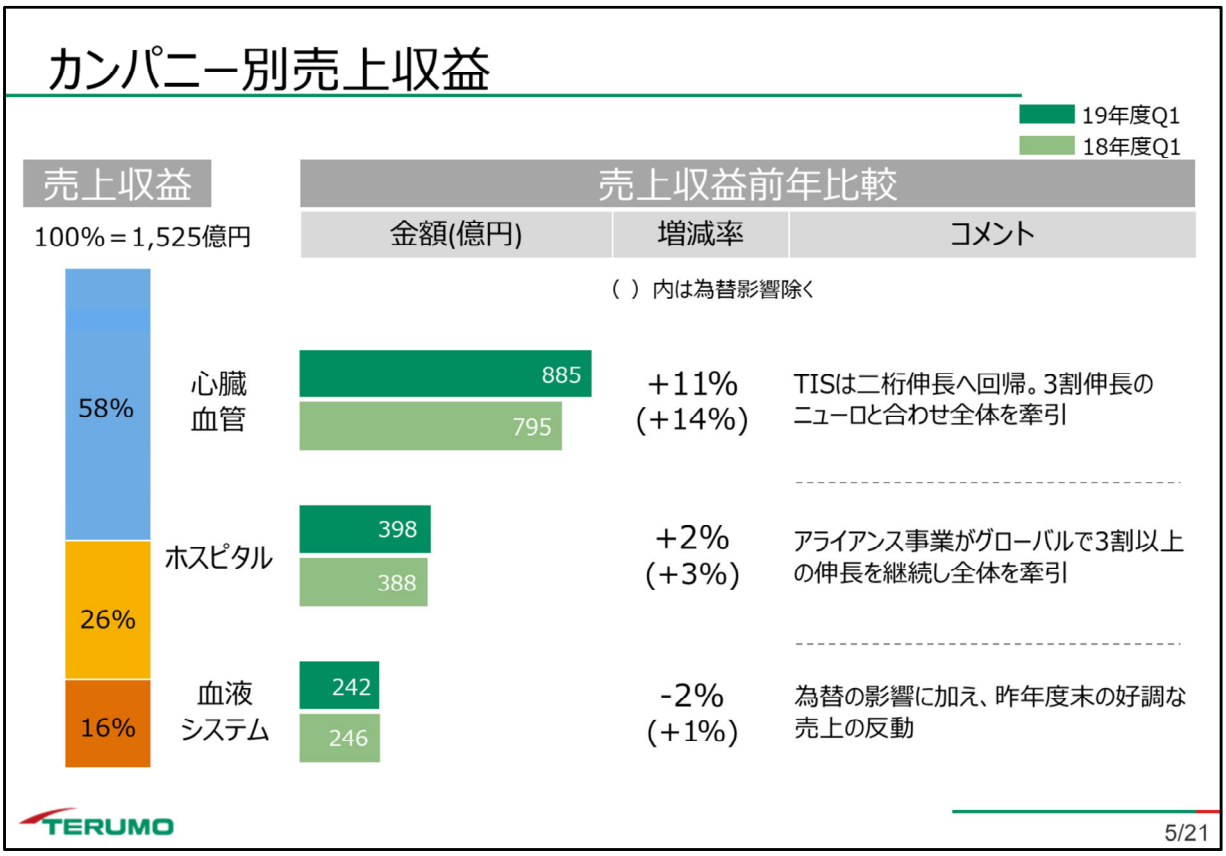
「為替の影響」は、全体として概ねガイダンス通りの影響額となりました。



地域別売上収益です。

日本ではTIS事業が二桁伸長に戻り、全カンパニーにおいてプラス伸長となりました。

海外は、いずれの地域でも心臓血管カンパニーが全体を牽引しています。特に中国は、前年同期に既に、愛鷹工場における出荷遅延の影響が出ていたことに加え、今年度にエッセン・テクノロジー社の薬剤溶出型冠動脈ステント（DES）が加わったこともあり、25%と大きく伸長しました。

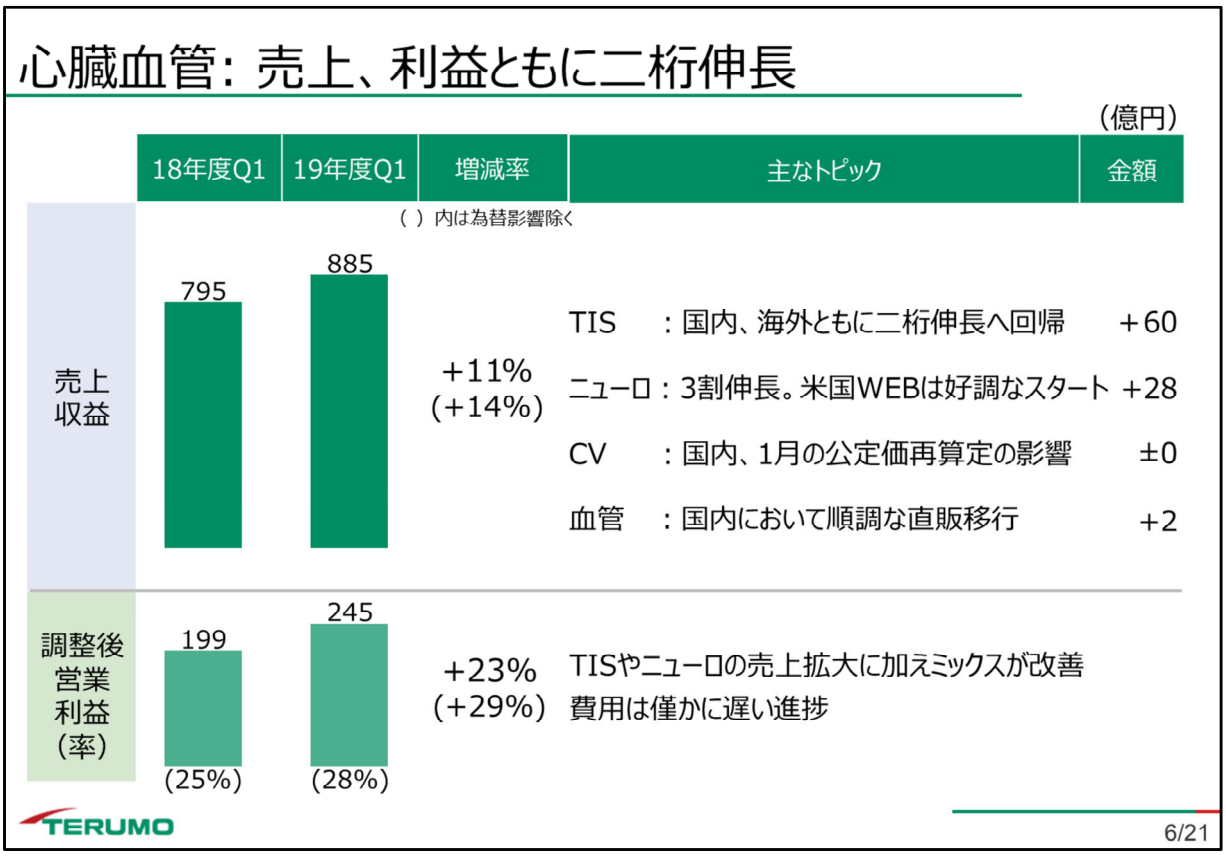


カンパニー別売上収益です。

心臓血管カンパニーは、TIS事業の順調な回復に加え、ニューロバスキュラー事業が30%以上伸長し、カンパニー全体を牽引しました。

ホスピタルカンパニーは、アライアンス事業が３割以上の伸長を継続し、全体として堅調です。

血液システムカンパニーは、為替の影響を強く受けている事に加え、欧米を中心に、昨年度末に計画前倒しの売上が入り、その反動で4月の売上が振るわず、マイナスでのスタートとなりました。



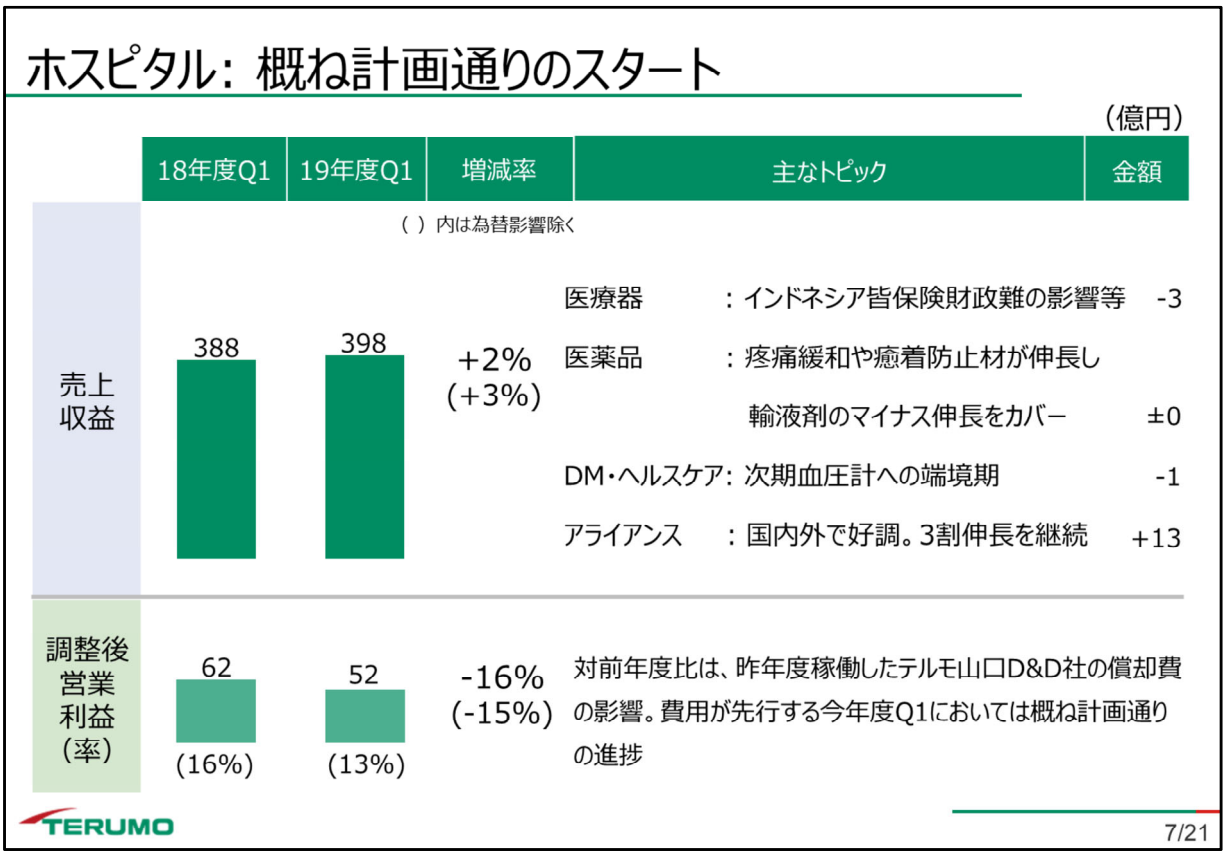
心臓血管カンパニーです。

売上収益は、為替の影響を受けながらも11%伸長となりました。

TIS事業は、昨年度の愛鷹工場における出荷遅延からの回復分を除いても、アクセス・治療デバイスともに順調に伸長しており、国内外で二桁伸長となりました。

ニューロバスキュラー事業は、米国における袋状塞栓デバイス「WEB」が好調なスタートを切ったことに加え、血栓吸引カテーテル「Sofia」も大幅に伸長し、全体で30%の伸長となりました。

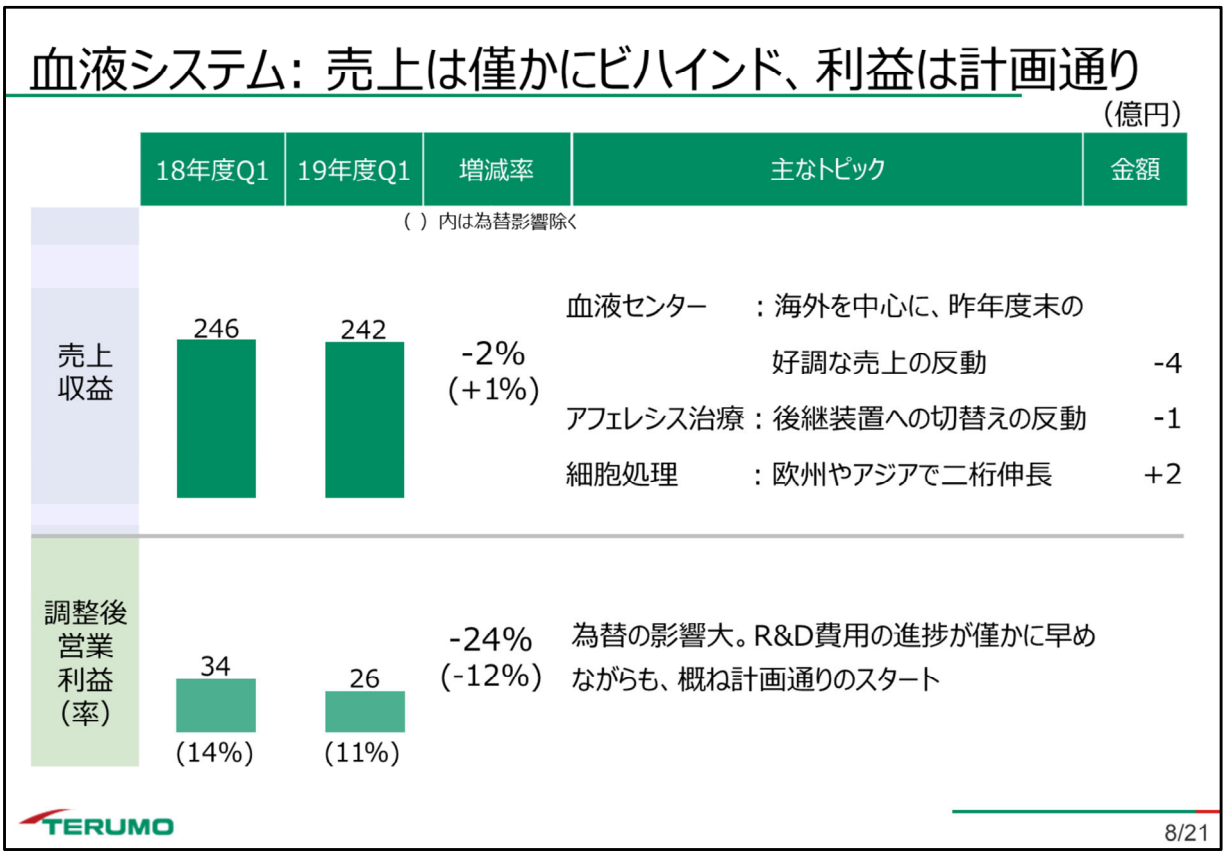
利益については、収益性の高いTIS事業やニューロバスキュラー事業の売上拡大に加えて、ミックスの改善が貢献しています。プロモーションや人の採用などの費用進捗に期ずれがあったことも影響し、前年度同期比23%増となりました。第２四半期以降は、費用進捗が進むことに加え、10月には公定価の改定も控えているため、徐々にガイダンスに近づいてくると見ています。



ホスピタルカンパニーは、概ね計画通りのスタートを切っています。

売上収益は、海外で医療器において需要減がありましたが、国内外でアライアンス事業が30%の伸長を継続し、全体として前年度比2%増となりました。

利益については、ガイダンス発表時にお話したように、アライアンス事業においてテルモ山口D&D社の償却費が発生し始めたことに加え、第１四半期は費用が先行して発生する予定であったことから、概ね計画通りの着地となっています。



血液システムカンパニーです。

売上収益は、欧米を中心に昨年度末に計画前倒しの売上が入った反動により、今年度４月の売上が振るいませんでした。加えて為替も影響し、マイナス伸長でのスタートとなっています。

利益は、為替の影響を大きく受けたことに加え、Ｒ＆Ｄ費用も想定よりもやや早めに発生したこともあり、二桁の減益となっておりますが、四半期ごとの計画としては、ほぼ想定通りとなっております。

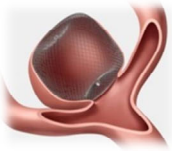
主なトピックス

全社

- ■時差勤務制度導入や在宅勤務制度拡充など、働き方改革を推進（４月）
- ■新企業理念体系を制定：社員共通の価値観「コアバリューズ」を新設（４月）
- ■譲渡制限付株式報酬制度を導入（６月）

事業

- ■脳動脈瘤治療用の袋状塞栓デバイス「WEB」を米国にて本格発売（４月）



- ■ステントリーバー「Tron FX」、日本で発売（４月）
- ■米オーケストラ・バイオメド社から、薬剤溶出バルーンの独占販売権を取得（６月）

TERUMO

9/21

主なトピックスです。

時差勤務や在宅勤務など、働き方改革を推進したとともに、理念体系の制定や、役員の報酬制制度の見直しなど、ガバナンスの強化に資する施策も行いました。

事業では、ニューロバスキュラー事業における袋状塞栓デバイス「WEB」の米国発売や、ステントリーバー「Tron FX」の国内発売、そして米オーケストラ・バイオメド社の薬剤溶出バルーンについて独占販売権を獲得するなど、心臓血管カンパニーにおける、治療製品の展開加速に関するトピックスが並びました。

19年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品	地域	ローンチ
アクセス	ディスタルラジアル用止血デバイス	日	
心臓	PTCAバルーン	欧亜	
ペリフェラル	ステント (TRI)	日米	
脳	袋状塞栓デバイス (WEB)	米	済み
	中間カテーテル (Sofia EX)	欧米	
	ミニ・バルーン	欧米	
	血栓吸引カテーテル	日	
	ステントリーバー	日	済み
CV	次世代人工肺	日	
	人工心肺装置(再出荷)	日	
血管	大口径人工血管 （トリプレックス・アドバンスド）	日	

領域	製品	地域	ローンチ
医療器	次期シリンジポンプ	日	
医薬品	麻酔用鎮痛剤（フェンタニル注射液）	日	
	癒着防止材（アドスプレー・ミニ）	日	
DM・ヘルスケア	持続血糖測定器	日	済み
	血糖測定システム	日	
	パッチ式インスリンポンプ	日	
	次期血圧計	日	
	次期体温計	日	
血液	細胞治療用充填・仕上げシステム（FINIA）	グローバル	済み

TERUMO

10/21

今年度のパイプライン製品はご覧の通りです。
今のところ想定通りに製品ローンチが進んでおります。

心臓カテーテルの治療製品を拡充

米オーケストラ・バイオメド社から薬剤溶出バルーン「Virtue」の独占販売権を取得(6月13日発表)

- 薬剤に冠動脈治療用DESに用いられるシロリムスを使用
- 従来品と異なり塗布方式ではなく、独自の薬剤溶出方式を採用。薬剤がはがれるリスクを低減
- 2019年4月、米FDAより「ブレークスルー機器指定」を取得
- 一時金約3,000万米ドル、500万米ドルの出資 ＋ マイルストーン、販売にともなうロイヤリティ
- 2020年に治験開始。数年後に米国で初の製造販売承認を目指す。グローバル展開を予定

TERUMO

11/21

米オーケストラ・バイオメド社からの、薬剤溶出バルーン「Virtue」の独占販売権取得についてです。

薬剤溶出型冠動脈ステント（DES）に使用されている薬剤シロリムスを用い、塗布ではなく、独自の溶出方式を採用しています。

米国FDAより「ブレークスルー機器指定」を受けている製品で、2020年に治験を開始、まずは、その後数年での米国発売を目指していきます。

参考資料

TERUMO

19年度Q1　事業別・地域別売上収益と伸長率

（億円）

事業セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	121 (+8%)	764 (+15%)	221 (+9%)	337 (+11%)	117 (+36%)	88 (+21%)	885 (+14%)
うちカテーテル※	92 (+9%)	632 (+17%)	180 (+10%)	267 (+14%)	111 (+37%)	74 (+21%)	724 (+16%)
ホスピタル	312 (+3%)	85 (+1%)	22 (+8%)	19 (+12%)	6 (-1%)	39 (-6%)	398 (+3%)
血液システム	25 (+2%)	217 (+1%)	58 (-2%)	104 (-1%)	13 (+9%)	42 (+9%)	242 (+1%)
合計	460 (+4%)	1,066 (+10%)	300 (+6%)	460 (+8%)	136 (+31%)	169 (+11%)	1,525 (+9%)

※ニューロバスキュラー事業含む

（ ）内は為替影響除く前年比伸長率

TERUMO

販管費

（億円）

	18年度Q1	19年度Q1	増減	増減率	為替除く増減率
人件費	217	219	+2	+1%	+3%
販促費	45	49	+4	+9%	+11%
物流費	32	35	+2	+7%	+9%
償却費	34	45*	+11	+32%	+33%
その他	107	97*	-10	-9%	-8%
一般管理費計	435 (30.4%)	445 (29.2%)	+10	+2%	+4%
研究開発費	113 (7.9%)	118 (7.8%)	+5	+5%	+4%
販管費合計	548 (38.3%)	564 (37.0%)	+16	+3%	+4%

*償却費とその他において、IFRS16号（リース会計）により組み替え

TERUMO

四半期の動き

（億円）

	18年度Q1（4－6月）	Q2（7－9月）	Q3（10-12月）	Q4（1－3月）	19年度Q1（4－6月）
売上収益	1,430	1,420	1,586	1,559	1,525
売上総利益	799 (55.8%)	747 (52.6%)	876 (55.2%)	843 (54.1%)	852 (55.8%)
一般管理費	435 (30.4%)	435 (30.5%)	450 (28.4%)	467 (29.9%)	445 (29.2%)
研究開発費	113 (7.9%)	124 (8.8%)	123 (7.7%)	116 (7.5%)	118 (7.8%)
その他収益費用	8	29	6	21	4
営業利益	259 (18.1%)	217 (15.3%)	309 (19.5%)	282 (18.1%)	292 (19.1%)
調整後営業利益	305 (21.4%)	248 (17.4%)	359 (22.6%)	309 (19.9%)	339 (22.3%)
四半期平均レート USD	109円	111円	113円	110円	110円
四半期平均レート EUR	130円	130円	129円	125円	123円

TERUMO

調整後営業利益：調整額

（億円）

	18年度Q1	19年度Q1
営業利益	259	292
調整① 買収無形資産の償却費	+38	+40
調整② 一時的な損益	+9	+8*
調整後営業利益	305	339

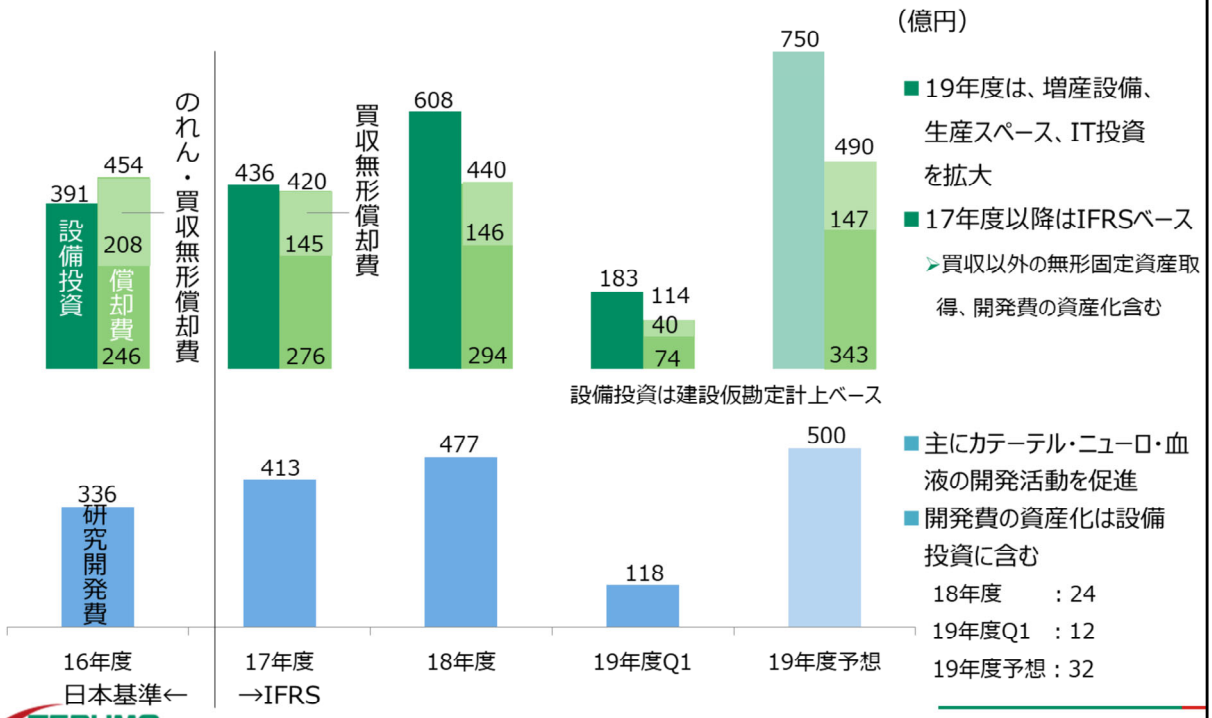
調整項目

- 買収関連費用
- 訴訟関連損益
- 減損損失
- 事業再編費用
- 損害保険収入
- 災害による損失
- その他一時的な損益

* 19年度Q1 調整②「一時的な損益」の主な項目	調整額
事業再編コスト	+3

TERUMO

設備投資と研究開発費



- 19年度は、増産設備、生産スペース、IT投資を拡大
- 17年度以降はIFRSベース
  - ➢買収以外の無形固定資産取得、開発費の資産化含む

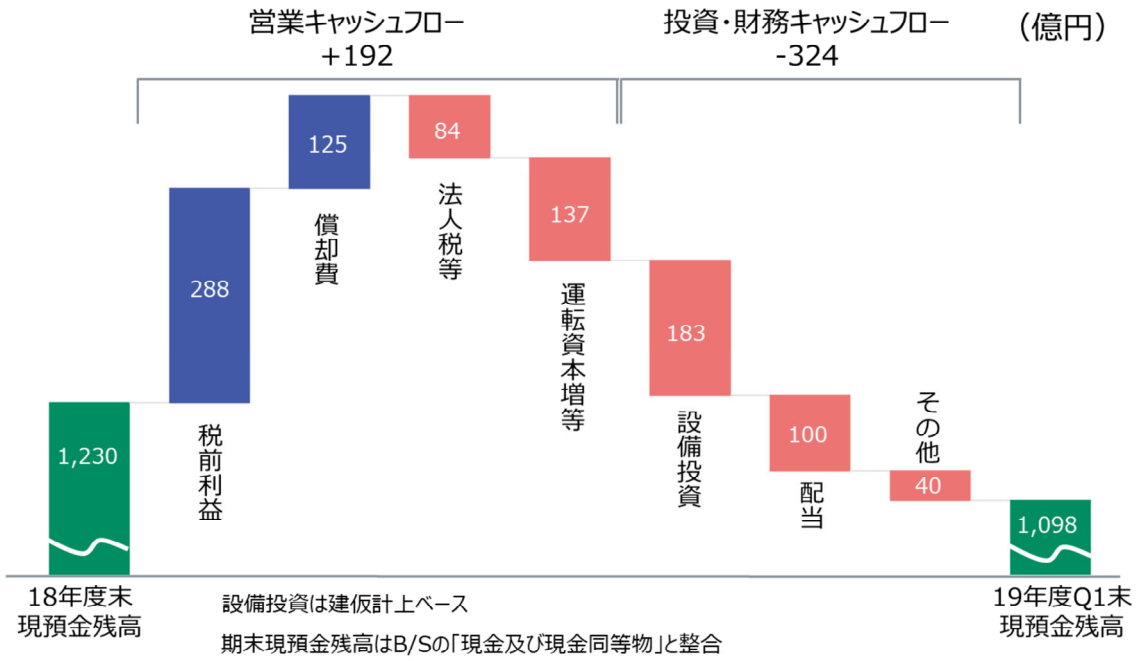
- 主にカテーテル・ニューロ・血液の開発活動を促進
- 開発費の資産化は設備投資に含む

18年度　：24
19年度Q1　：12
19年度予想：32

TERUMO

17/21

キャッシュフロー



設備投資は建仮計上ベース

期末現預金残高はB/Sの「現金及び現金同等物」と整合

TERUMO

為替感応度

1円の円安に対しての年間影響額　（億円）

	USD	EUR	人民元
売上収益	17	8	22
調整後営業利益	0	5	12

＜参考＞ 10%円安に動いた時のインパクト

	北米	中南米	欧州		アジア	
			ユーロ圏	その他	人民元	その他
調整後営業利益	-1	10	65	13	19	36

TERUMO

転換社債の状況

■ 社債明細（2014年12月起債）

※2019年4月に実施した株式分割考慮

満期	発行額（億円）	金利	転換価格（円）	転換制限価格（円）	転換の場合必要となる株数
2019年12月	500	0.0%	1,919	2,495	約26百万株
2021年12月	500	0.0%	1,919	2,495	約26百万株
計	1,000				約52百万株

■ 転換状況（2019年7月31日時点）

対象社債	転換行使額（対象社債総額比）	交付株数（発行済株式総数比）
2019年12月満期	500.0億円(100.0%)	25.9百万株(3.4%)
2021年12月満期	252.4億円(50.5%)	13.1百万株(1.7%)
計	752.4億円(75.2%)	39.0百万株(5.1%)

➢ 転換行使による株式交付は自己株式を充当

- 自己株式の状況： 16.3百万株(2019年7月末時点、取得単価1,949円、発行済総数比2.2%)

TERUMO

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。

TERUMO